

新たなチャレンジを生み出す公園づくり ～公園協議会の取組



長久手市は、名古屋市に隣接する西部には住宅地、東部には田畑や丘陵地の風景が広がっています。2つの地域の接点にあるリリモテラスエリアには東部丘陵線（リリモ）の長久手古戦場駅の駅前広場、新たなつながりをデザインする場として2021年にオープンしたリリモテラス公益施設、そして、それらをつなぐ広場空間としての「長久手中央2号公園」があります。

パブリックプレイスとしての公園 ～スペース(空間)を利活用できるプレイス(場)に

まちなかのオープンスペース（屋外空間）としての公園の価値が改めて見直される中、「だんだん・つながる・公園」をテーマにリニューアルすることになりました。



設計プロセスでは「青空会議」を通して、アイデアを集め、実験的に焚き火で焼き芋を作ってみたり、緑道でマルシェを開催したりして利活用の可能性を広げてきました。
リニューアルの工事では市民の手仕事も交えて公園とのつながりを育んできました。
生まれ変わった公園には日常の使い勝手の向上と市内外からの「新たなチャレンジの場」としての活用が期待されています。

リニューアルを機に公園の「これから」を考える場として、都市公園法に基づく「**長久手中央2号公園利用促進協議会**」が発足。公園の利用上の制約、矛盾・常識を打ち破り、どこまで議論できるのか。新たな公園の使い方、あり方を考える協議会の取組が始まりました。



公園のローカルルールは常にアップデートできるような仕組みにすることが大事。

自由を「拡大」させて、おもしろいことや問題が起きたら常に「調整」する。問題が起きたら禁止して単純にルールで縛るのではなく、拡大と調整を繰り返す。そんな議論の場のひとつが協議会。

いろんな人たちの振る舞いが居心地のいい素敵な風景をつくり、次につながっていく。



境界を超える パークからエリアへ

公園～緑道～リリモテラス公益施設

内と外の境界をあいまいにして（境界を溶かして）視野を広げ、管理主体が異なるという壁を超えて、リリモテラスというエリアが一体となるような取組を進めていく。



公園のビジョンを描く ～市民がワクワクできることが自由にできる公園

今まで公園でやっていたことをベースに考えてしまうと限界がくる。公園というよりも「まちなかの広場」みたいな親しみやすい感覚でおもしろい取組（実験的なもの）を継続的にいろんな形でつなげていく。



協議会での議論は、これまでの公園のカタチを変えていこうとするものです。
様々なプレイヤーが共存していくために互いにコミュニケーションを取りながら、ネットワークを築き、実際に使いながら、できることをひとつずつ積み上げ、ローカルルールをつくっていく。
固定観念を乗り越え「この場で何かやりたい」という新たなチャレンジの芽を育みながら、「こんな公園にしていきたい」というみんなの想い（ビジョン）をカタチにしていこうとする取組は、まだまだ始まったばかりです。

